



## Vol. 16に寄せて

10月に入り気候も秋らしくなってきました。植物園では秋の花が見頃になっています。秋に咲く花は、春や夏の花とは違って派手さはありませんが落ち着いた雰囲気があるように感じます。また、秋は実りの季節で、これまで咲いていた花が次々と実を結んでいます。講義や実習も始まり忙しい日々を送っていると思いますが、気分転換と運動不足の解消を兼ねて、是非、植物園にお越し下さい。

なお、緊急事態宣言は解除されましたが、感染防止対策はこれまで通り行いますので、ご協力をお願いします。また、美味しそうに見える果実でも有毒のものがありますので、口に入れないようにしてください。

## 10月に見頃を迎える植物：エビスグサ（マメ科）

和名：エビスグサ  
学名：Cassia obtusifolia Linné  
薬用部：種子  
生薬名：ケツメイシ（決明子）  
用途：整腸薬、瀉下薬  
栽培場所：植物園 1号園  
開花時期：8～10月



### エビスグサについて

アメリカ原産でアジアや日本で広く栽培される草本植物（日本では1年生）である。日本には享保年間（1716～1736）に渡来したとされている。高さは1.5 m、葉は互生し、偶数羽状複葉\*で倒卵形をした3対の小葉からなる。小葉は長さ3～4 cmで先のものほど大きく基部は小さい。基部に近い小葉の対がある葉軸上には褐色の腺体がある。この腺体から分泌される蜜を目的にアリなどがたくさんやってくる。夏ごろに黄色の5弁花を葉腋につける。豆果（莢果）は線形で、長さ15～20 cm、下向きに湾曲している。中に褐色で光沢のあるひし形で柱状の種子30～35粒が1列に入っている。（偶数羽状複葉\*については、裏面のミニ知識をご覧ください。）

### 決明子（ケツメイシ）について

決明子は神農本草経の上品に収載される古い生薬であるが、漢方処方にはあまり配剤されておらず、民間薬として広く利用されている。日本薬局方収載の生薬で、エビスグサ以外に熱帯アジア原産のC. toraも基原植物として記されている。生薬は、果実が褐色に熟した秋頃に全草を採取し、種子を集めよく天日で乾燥させて調製される。質は硬く、砕くと特異なおいおよび味がある。民間では、整腸薬または緩下薬として利用されており、瀉下作用は含有されるアントラキノン誘導体によるものと考えられている。決明子の瀉下作用は、大黃やセンナに含まれるセンノシドほど強くなく、便秘気味の人に健康茶として利用されている。しかし、冷えなどのある人・虚弱な人が常用する場合は注意が必要である。（生薬の写真は裏面をご覧ください。）

## 10月に見頃を迎えるその他の植物 <科名はAPG分類体系による>



タバコ（ナス科） **有毒**  
生薬名：タバコヨウ（煙草葉）  
薬用部：葉  
効能：嗜好吸煙料、殺虫剤原料



イヌサフラン（イヌサフラン科）  
生薬名：コルヒクム子  
薬用部：種子  
効能：痛風発作の治療  
種なしスイカの作成にも利用



カリガネソウ（シソ科）  
生薬名：バベンソウ（馬鞭草）  
薬用部：全草  
効能：腫れ物、打ち身（外用）



フジバカマ（キク科）  
生薬名：ランソウ（蘭草）  
薬用部：花期の全草  
効能：利尿、解熱、通経など

秋の七草の  
1つ



ゲンノショウコ（フウロソウ科）  
生薬名：ゲンノショウコ（現証拋）  
薬用部：地上部  
効能：止瀉、整腸



バクチノキ（バラ科）  
葉からバクチ水が取れる。  
バクチ水はキョウニン水の原料になる。



クコ（ナス科）  
生薬名：①クコシ（枸杞子）  
②ジコツピ（地骨皮）  
薬用部：①種子、②根皮  
効能：滋養強壮など



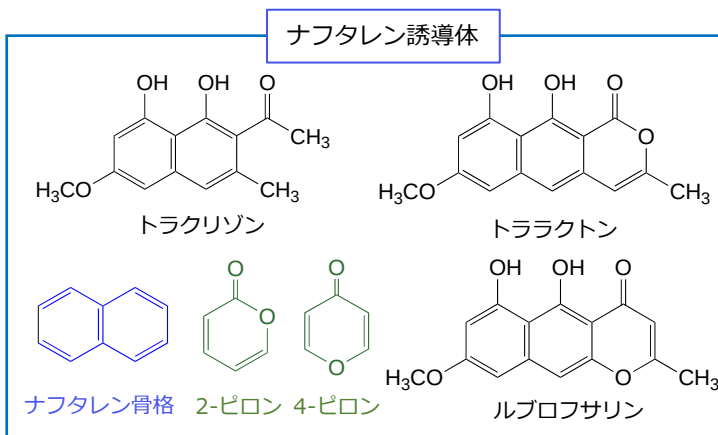
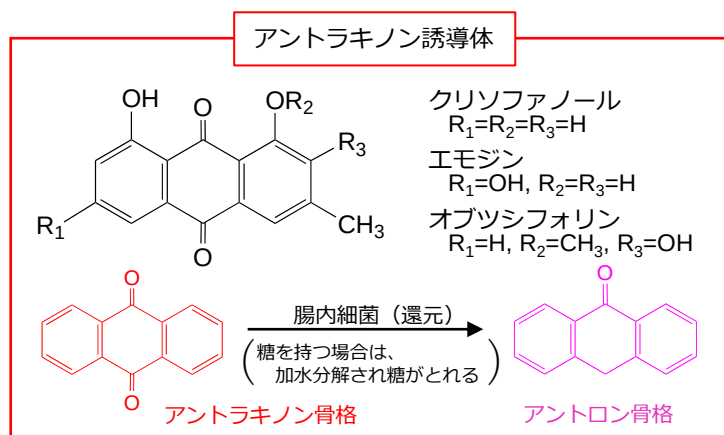
ヤマハギ（マメ科）  
茶葉の代用品  
根を民間薬として利用



# ステップアップ講座（決明子の成分、植物園で見られるCassia属の植物）

## 決明子の成分

決明子の成分としては、アントラキノン誘導体、ナフタレン誘導体が報告されている。アントラキノン誘導体は、エモジン、オブツシフォリン、クリソファノールなどとそれらの配糖体が報告されている。一般に、アントラキノン類は摂取後、腸内細菌による糖の加水分解のほか、還元作用を受けてアントロン型になることで瀉下作用を示すとされる。ただし、作用の強さは化合物により差がある。ナフタレン誘導体には、トラクリゾンや2-ピロン環を持つトララクトン、4-ピロン環を持つルブロフサリンが報告されている。



## 植物園で見られるCassia属の植物

Cassia属（カワラケツメイ属）植物は多くの種があるが、植物園ではエビスグサ以外に同様の目的で生薬として利用されるハブソウ（*C. torosa* Cav.）とカワラケツメイ（*C. nomame* Honda）を栽培している。（1号園）

**ハブソウ**：アメリカ原産で、江戸時代に渡来したとされる。高さは1~1.5 m、葉は互生し偶数羽状複葉で、エビスグサと異なり先端が尖った披針形の小葉5~6対からなる。花は黄色の5弁花で葉腋につく。豆果は、長さ10 cmの円筒形で上向きに付き、中の種子を望江南（ボウコウナン）といい、健胃、緩下を目的に民間薬として用いられる。エビスグサとハブソウはよく似ているが、写真（下）のように、小葉や豆果の形で簡単に識別できる。**カワラケツメイ**：本州、四国、九州のほか朝鮮半島や中国にも自生する1年草。高さは30~60 cmで、葉は互生し偶数羽状複葉で、多数の小葉をつける。花は小さく黄色の5弁花で葉腋につく。豆果は3~4 cmの平たい莢で上向きに付く。全草を山扁豆（サンヘンズ）といい、利尿、健胃、強壯の目的で民間薬として用いられる。

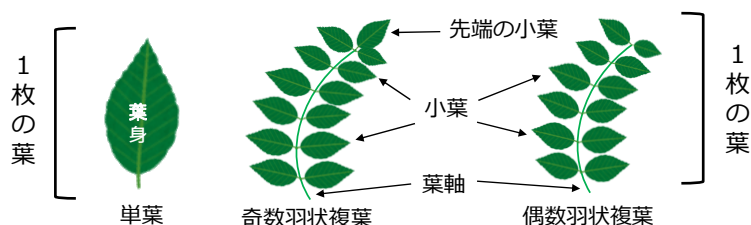


## MEMO：

「ケツメイシ」という男性4人組の音楽グループがある。生薬ケツメイシの効能に瀉下作用があり「全てを出し尽くす」という意味を込めて命名したと言われている。メンバー4人のうち2人は薬学部出身とのことである。

## 羽状複葉（ミニ知識）

葉は単葉と複葉に分類することができます。葉身が完全に分裂して複数の葉（小葉）になったものを複葉といい、分裂の仕方によりいくつかの形があります。小葉が葉軸の左右に対に並び鳥の羽のように分裂したものを羽状複葉といい、葉軸の先端に小葉が1つあるものを奇数羽状複葉、ないものを偶数羽状複葉といいます。



\*ステップアップ講座では、本学 総合教育研究センターの竹仲由希子先生にご協力いただきました。

## 編集後記

「ハブ茶」という健康茶があります。もとはハブソウの種子を用いて作られていたのですが、今は収穫量の多いエビスグサの種子が用いられています。健胃作用と穏やかな瀉下作用があり、便秘気味の人の健康茶として利用されています。ちなみに、ハブのような蛇に噛まれた時に、ハブソウの葉の汁を用いたことから「ハブソウ」という名前がついたとされています。

神戸薬科大学 薬用植物園  
園長 小林典裕（生命分析化学研究室 教授）  
西山由美（文責）、平野亜津沙、大井隆博  
E-mail : [nisiyama@kobepharm-u.ac.jp](mailto:nisiyama@kobepharm-u.ac.jp)

